

隣接地区（真鯉）におけるロードセンサス（日中センサス）結果
（知床財団独自調査事業）

- ・世界遺産隣接地区の真鯉地区において、平成 24（2012）年 12 月から平成 25（2013）年 4 月までの期間に、エゾシカの日中カウント調査を計 7 回実施した。
- ・調査範囲はオショコマナイ川からオチカバケ川までの国道沿い、延長 12.0 km の区間とした。調査範囲のうち、3.5 km は国指定鳥獣保護区内、8.5 km は鳥獣保護区外（可猟区）である。
- ・調査実施にあたっては悪天候時を避け、エゾシカが出没しやすい時間帯（13 時以降）を選択した。
- ・エゾシカの群を発見した際は、発見場所と群の構成（性別、成獣と子の別、オスの角のポイント数）を記録した。

<実施結果>

- ・2 月 1 日に最大の 517 頭（43.1 頭/km）を確認した（表 4-1-1）。このうち国指定鳥獣保護区内での確認数は 193 頭（37 %）、鳥獣保護区外での確認数は 324 頭（63 %）であった。なお、この日は猟期外（捕獲中断期間の 7 日目）であった。
- ・群の構成は全期間を通してメス成獣が多かった（69～95 %）。メス成獣に対する子の割合は 1 月が最も高く、2 月以降は減少した。

表 4-1-1. 平成 24 シカ年度 真鯉日中センサス結果

調査日	メス	子	オス			不明	合計	メスの割合	メスに対する子の割合
			1~2P	3P	4P				
12月20日	0	0	0	0	0	1	1	-	-
1月10日	34	10	2	0	1	2	49	69%	29%
2月1日	407	94	1	4	11	0	517	79%	23%
2月7日	309	25	0	5	12	4	355	87%	8%
3月8日	97	2	1	5	0	1	106	92%	2%
3月20日	145	10	0	1	4	16	176	82%	7%
4月13日	40	1	1	0	0	0	42	95%	3%

- ・1km あたりの確認数（密度指標値）の最大値は、鳥獣保護区内で 55.1 頭/km、鳥獣保護区外で 38.1 頭/km となった。密度指標値は鳥獣保護区内の方が大きかったが、季節的な増減のパターンは、保護区内外を問わず、ほぼ同様であった（図 4-1-1）。

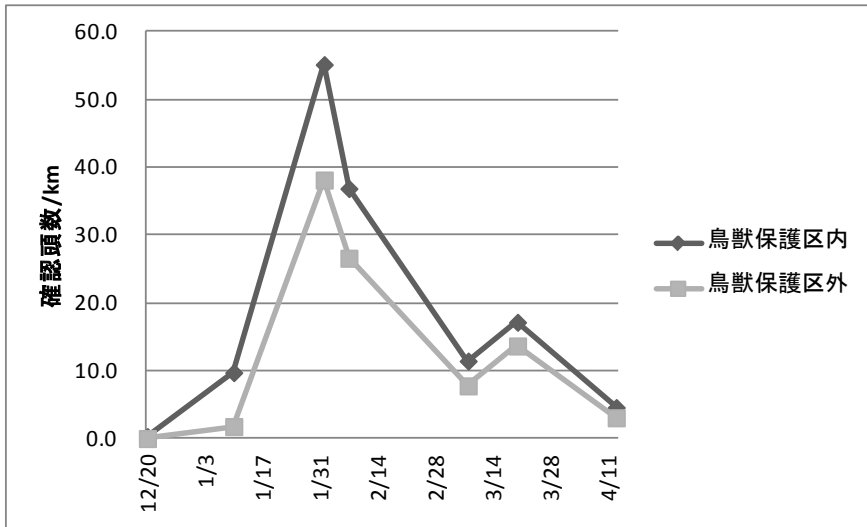


図 4-1-1. 平成 24 シカ年度真鯉日中センサスの結果 2 (密度指標値の鳥獣保護区内外比較)

- ・今年度は昨年度の最大確認数 757 頭 (63.1 頭/km) より若干減少したが、2 月がピークとなる傾向は昨年度と同様であった。
- ・過去 5 年間の結果を比較すると、鳥獣保護区内における確認数の増加傾向が示唆された (図 4-1-2)。

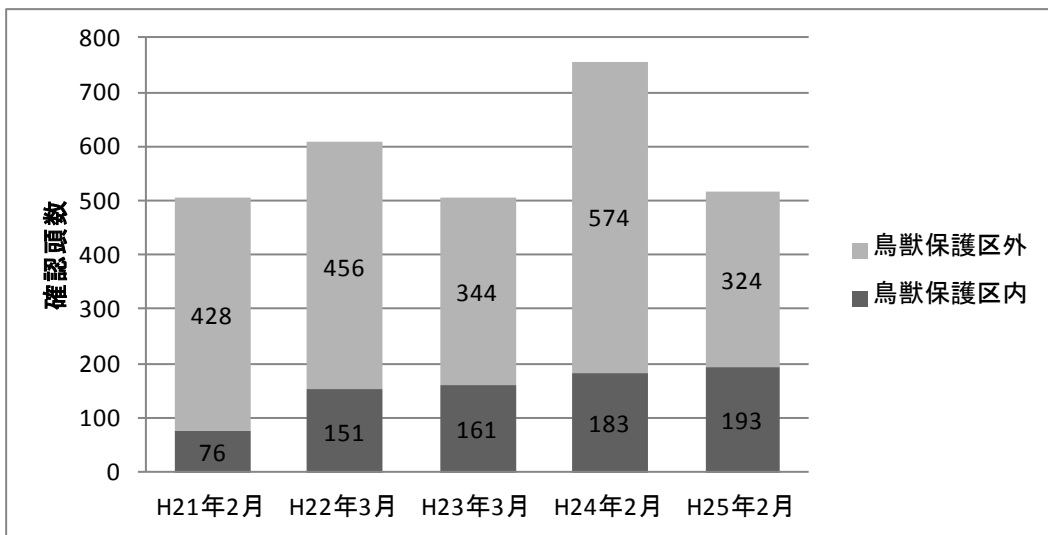


図 4-1-2. 過去 5 年間の真鯉日中センサス結果*の比較

*各年複数回 (7~9 回) 実施した調査結果の中から、最大頭数を記録した日の数値を採用した。